

海老名市立杉本小学校

なかよしルームを活用した
校内支援体制



授業中です



2025年7月現在

Ⅰ なかよしルームの運営目的・指針・方針

【目的】

◎落ち着いた空間で学習・生活できる環境をつくり、誰一人取り残さない学びの保障という不登校対策

文部科学省は「COCOLO プラン」(令和 5 年 3 月)を策定し、不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにするための取り組みについて述べていて、実現に向けて下の 3 つについて推進している。

- ①不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える。
- ②心の小さな SOS を見逃さず、「チーム学校」で支援する。
- ③学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする。

校内教育支援センター(SSR)(以下なかよしルーム)では「不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」ことを目的とし、設置された。

本校では、登校ができて自分の教室に入りづらい児童生徒が、落ち着いた空間の中で自分のペースで学習・生活できる環境の支援を目的として設置されている。

【指針】

◎学習を基本としつつ、自分の気持ちに合わせて過ごすことができることを許容する居場所

〈学習の基本〉

- ①クラスの時間割に沿って学習する。
- ②活動の優先順位としての 1 番は学習である。

※利用児童にとって学習に取り組むハードルが高い場合は、学習にはこだわらず、柔軟に対応していくことを許容する。

【方針】

本校における利用方針は、指針で示した内容をさらに具体化した次の3点を運営方法としてとらえることとする。

①明日また行きたい学校となるために、子どもにとって安心・安全な居場所となること。

- ・「居場所」とは、子どもにとって「安心できる」「自分の存在が認められる・大切にされる」「自分を表現できる」場所であることを指す。
- ・子どもの状態によっては来るだけ(いるだけ)、会話を楽しむだけの時間があることも認めること。

②社会(学校、教職員、友だち、関係機関等)とのつながりを保つこと。

- ・社会(学校、教職員、友だち、関係機関等)とのつながっていることで、学級に行きやすくなる、戻りやすくなるきっかけをつくる。
- 声掛けをすることがあっても、無理強いをしたり、強制するなどの、本人の意思と大きく違うことはしない。

③学習の機会・環境を確保すること。

- ・担任と連携し、その日のほとんどの授業をオンラインで参加できるようにする。
- ・1人1台端末を活用した子どもたち一人ひとりの学習進度や興味・関心等に応じた指導など、一方通行型でない、子どもたちの特性に合った柔軟な学びを実現し、それぞれが前向きに学べるようにする。

※二次障害として「学校に行きたくない」とならないように、CO を中心とした相談体制を整え、子どもだけでなく、保護者の支援も行う。

2 なかよしルームの概要

◎別室登校支援員 (SSS)

月～水 三浦 このみ
木・金 篠塚 加津子

◎活動場所

1 館 4 階 なかよしルーム

【なかよしルーム利用までの手順】

①児童の見立て

・該当児童と保護者、教職員、SC/SSW 等の連携の中で、なかよしルームの利用希望がある。
また、普段の学校生活の様子から、なかよしルームの利用が望ましいと判断できる状況であること。

⇒CO に連絡・相談

場合によっては校内支援委員会にて検討。

⇒保護者との面談

現状の把握、希望に至った経緯、保護者（担任）の願い など

②利用の開始

・一日の学習内容については、事前に担任と CO で相談しておく。

基本、支援員は予定に沿って個々の支援にあたる。

・常に CO（または担任）と相談しながら進めていく。

・個々の活動の記録をとり、支援の内容が支援員によってばらつきがないようにする。

③利用の継続

・定期的に情報交換を行いながら、今後の支援について検討していく。また、必要に応じて保護者面談を行い「えびなっ子支援シート」を作成し、関係職員間でも共有する。

〈活動例〉

・タブレットを使用し、オンライン授業を受ける。

・学習支援ソフト（スクールタクト）を使用し、課題の提出をおこなう。

・ドリル（ドリルプラネット含む）などの補助教材や、テストなど、自学で取り組める課題の見守りがある中で進める。

・技能教科の課題の作成

・休み時間にカードゲーム、共同制作など、コミュニケーションスキルをあげる活動の実施。

など